

様式第2号(第9条関係)

会議録

会議の名称	平成29年度第1回ふじみ野市総合教育会議			
開催日時	平成30年2月15日(木) 開会時刻 午後5時 閉会時刻 午後6時7分			
開催場所	市役所第2庁舎 B301会議室			
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
	市長	高畑 博		
	教育長	朝倉 孝		
	教育長職務代理者	富田 信太郎		
	委員	塩野 好一		
	委員	山城 いづみ		
	委員	伊藤 英夫		
会議の議題	(1) 通学区域について (2) 発達に課題のある児童・生徒への支援について (3) その他			
会議の公開又は非公開の	公開			
会議の非公開の理由	-			
傍聴人の数	-			
発言の内容	別紙「発言の要旨」のとおり			
会議資料	別添のとおり			
説明員	土屋教育部長、皆川教育総務課長			
事務局	金子総合政策部長、経営戦略室(樋口室長、武井副室長、森川主査、鶴崎主任)			
議事の確定	確定年月日	平成30年2月28日		
	記名押印	役職名 市長 高畑 博 ㊟		

発言の要旨

発言者	発言の要旨
市長 事務局	<p>－開会－ 事務局より、議題及び参考資料の説明 傍聴人について「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項の規定」により、原則公開となることを説明。</p> <p>－あいさつ－ 総合教育会議につきましては、市長が主宰することとなっております。これからの進行につきましては、市長に行っていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
市長 教育長	<p>それでは、次第に沿って進行してまいります。次第のうち議題（1）「通学区域について」の説明を、朝倉教育長よりお願いします。</p> <p>－資料に基づき説明－ 本市は、小学生が平成34年度まで、中学校も含めると平成36年度まで増加傾向にあります。ニュータウン等の開発によって周辺部で増加し、中心部で減るのが一般的ですが、本市では中心部でも再開発などがあり、市の中心部で増加、市の周辺部で減少傾向となっております。周辺部での増加なら学校を新設して対応する方法もありますが、中心部で新設するのは難しく、対策として学区の見直しを行わざるを得ない状況があります。</p>
市長	<p>一番の課題は合併時の市町境で、特に亀久保小学校区と駒西小学校区が非常に入り組んでおり、地域性と通学区がアンバランスとなっております。東上線のアンダーパスに通学上の危険性もあり、合併後、指定校変更で亀久保小へ通学させる保護者も多かったです。</p> <p>抜本的な対策を取らないまま今日に至っており、市全体としても子ども達の増減にアンバランスが生じているため、まずはこの旧市町境の課題について早急に取り組み、子ども達の安全な通学とともに、地域意識の醸成を考慮して、この部分に触れていかなければなりません。この現状について、学校や教育委員会だけで解決できることではありませんので、市長にも御理解いただき、市長部局や自治組織からの支援もいただけたらと思います。</p> <p>市民の皆様の視点では、来年から通学する学校が変更となったり、上の子どもと下の子どもで通学先が違うこともあります。政治の世界に関わる前の話しですが、私が中学校のPTA会長をやっていた時に上福岡第2小学校と第4小学校の統合に伴う学区審議会の委員となりまして、学区の見直し案が出た際に、民間人であった私のところへ地域の保護者の方が押し寄せてくるという大変な状況を経験しました。私も子どもも第2小学校が母校でしたが、まちの将来や子ども達のことを考えたら、その必要性につ</p>

<p>塩野委員</p>	<p>いて痛切に感じました。当事者の方は複雑な思いでしょうが、教育長から説明があったとおり、一部の学校に偏ってマンモス化していています。</p> <p>塩野委員は東台小学校が作られた頃に関わりを持たれていたと思いますが、何かご意見がありましたらお願いします。</p> <p>当時は東原小学校の児童数が1, 200人を超え、なるべく早く解消しなければならないということで学区を分けました。当時は市長が仰ったように保護者の方からのご意見も多かったのですが、今各小学校の人数を見ると、もっと先々まで人数の把握を行って学区を考えればよかったと思っています。学区審の諮問をされても、市が出す青写真にもっと意見が言えたらよかったと思います。</p>
<p>富田委員</p>	<p>この会議の前に環境センターでコミュニティスクールの中間報告を受けてきましたが、自治組織がこれからの学校運営の中で重要となっていくと講師からお話がありました。これからは自治組織とも綿密な連携を図る必要があると感じました。</p>
<p>市長 教育長</p>	<p>現状としては、1つの自治組織で2つの学校となっているところもあります。これは課題の一つです。</p> <p>旧大井地区では1中学校区に2ないし3小学校となっていますが、旧上福岡地区では1つの小学校で中学校が2つに分かれるなど複雑な状態となっています。旧大井で採られてきた学区の作り方がこれからの学校と地域の関係の上で適切と考えますが、抜本的な取組をするとすると市民全体の合意が必要となりますので、時間を要すると思います。</p>
<p>市長</p>	<p>同じ小学校でも複数の中学校へ進学先が割れてしまったり、自治組織の中でも3校に分かれてしまう地域もあります。</p> <p>今日の会議としては、実際に学区の再編をどうしていくかではなくて、今後課題解決に向けて取り組まなければならない中で、課題や率直なご意見をいただければと思います。</p> <p>具体的に進める際には教育委員会でプランを作っていて、プラン毎に課題解決をしていかなければならないと思います。伊藤委員はいかがでしょう。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>実際には住んでいないので地域的なところはわかりませんが、特別支援学級に通うなど特別な配慮を必要とするお子さんとその兄弟を同じ学校へ通学させたいという保護者の方や、また、逆に別のところに通学させたいという要望などが課題として出てくることがあります。</p> <p>私が住んでいる東京では区によって学区を廃止したところもあります。どうなっているかは検証しておりませんが、一方ではそういう極端なところもあります。</p> <p>市民が混乱するほどの大改革ではなく、影響を最小限にとどめ、皆さんがご理解いただけるようなデザインで進めてもらいた</p>

市 長	<p>と思います。</p> <p>現状と課題の中で説明いただいたように、せっかく合併したの にご意見が出てくる行政境で、以前は違う学校だったが、 合併したらこちらの学校が近いなど地域的な環境も出てきてお り、場合によっては先行して境界学区を検討し、その中から実情 を伝えながら全体や課題のある地域の検討を進めていく手法であ れば、伊藤委員が仰った大改革にもならないと思います。山城委 員はいかがですか。</p>
山城委員	<p>子ども会で聞く話では、中学校が分かれてしまうので苦労して いると聞いています。私も子どもが幼稚園の時は川越に住んでい ましたが、小学校に入学する際に家を購入しました。その際に子 どもの学校までの距離を取るか、夫の駅までの距離を取るか考 え、子どもが学校に通いやすいほうが良いとして物件を選びまし た。</p> <p>学区を編成するにあたって、早めに発表して期間をおかない と、住宅を買う方にとっては一生に一度の買い物をした後に遠く の学校に通うことになることもあります。</p>
市 長	<p>周辺部で開発があってドーナツ化するのではなく、中心地で団 地の建て替え、新規開発などにより膨らんできております。この 膨らみをちぎっていく形では課題も大きいです。教育長はいかが ですか。</p>
教育長	<p>学区全体として総論は賛成ですが、各論で課題がたくさん出て なかなか進まないと思います。一番の優先順位とすると、合併し て10数年経ちますが、市民の皆様の意識としては、学校をこの ままというよりは「近いところ、安全なところへ」ということが あると思いますので、自治組織の皆様のご理解もいただけたら と思います。</p> <p>教育委員会としては来年度に向けて進めたいと考えており、再 来年度に入学する子ども達は新しい学区で通学をさせていきたい と思います。小学校区の見直しと同時に中学校区の見直しも行い ますので、亀久保小学校区に変更となる児童はそのまま大井東中 学校へ通学することになると思います。</p> <p>また、先ほど塩野委員からお話のありました東原小学校から東 台小学校へ分離する際は、通学先を選択をするのではなく、学区 を分け通学することとしました。その際に、小学校で使っていた 運動着など学用品について補助を行った経緯があります。今回は ほとんどの児童が既に指定校変更で通学先が変わっています。現 在駒西小学校へ通っていて、学区が亀久保小へ変更となる児童も 通学先を選択していただく形となります。学用品を揃えなければ ならないなどは強制しませんので、この変更に伴う予算はそれほ ど大きくはならないと思います。ただ若干は学用品等の補助を行 わなければならない部分もあると思いますので、ぜひ市長にもご</p>

市 長	<p>配慮いただければと思います。</p> <p>学区編成会議のスケジュールとしては、9月に指定校変更を行う方へ伝えなければなりませんので、その時点までに結論を出すには、7月に学区編成の答申をいただく必要があります。5月に第1回審議会を行わなければなりませんので、市長部局のご協力もいただければと思います。</p> <p>学区の見直しをしていく上では、伊藤委員のお話でもあったように、大幅な見直しや一定規模となりますと激変緩和をどこまで認めるか、一定期間の弾力的な運用を行う中で、家庭事情や兄弟構成などの課題もあります。</p> <p>教育委員会でプランニングする際に、弾力的な運用をいつまでも引き伸ばして頼るのではなく、考えうる課題に対して弾力的な運用期間を設けるなど考えていただいた上で、プランを作っていたいただき、ただ見直すだけではなく、市民や自治組織にご理解をいただきやすい説明をし、現場の実情などを織り交ぜ、ご納得いただけるように示していきたいと思います。</p>
市 長 教育長	<p>以上で議題1について終了します。続きまして議題2「発達に課題のある児童・生徒への支援について」の説明を教育長お願いします。</p> <p>-資料に基づき説明-</p> <p>お手持ちの資料「発達の課題があり、個別の支援が必要とされる児童生徒数」は通常学級の子どもの達の相対の割合を示したものになります。これは医師の診断ではなくて、それぞれの担任の目から見て、担任の判断の基準で支援が必要と考える児童生徒の合計となります。国の平均が6.4%くらいで、この数値は年々増えているように感じます。</p> <p>一番最初に国がこの件で大掛かりな調査を実施したと記憶しているのは平成15年辺りで、その際に私は現場の教頭でしたが、全国の小中学校のクラスの例えば出席番号3番の子どもについて、担任の先生から見てどうか、あれができますかこれができるせんかなどを聞いていく調査であったと記憶しています。</p> <p>日本全国で実施して出た数値が6%くらいで、10数年が経ち、少しずつ増えていっています。</p> <p>本市においても課題となっており、市長も学校を回っていただいた際に目にしているかもしれませんが、急に席を立ったり、教室を飛び出す子どもがおります。これがだんだんとエスカレートし、非行問題行動化しているケースも見られるようになっていきます。特に小学校高学年で顕著となっており、小学校では担任が1人でやっておりますので、その児童にかかりつきりとなりますと、他の子に手が回らず、もぐら叩きのようになってしまいます。</p>

	<p>その中で市からも配慮をいただき、様々な支援員を配置して対応していますが対処療法で終わっています。根本的なところで対応するためには、乳幼児期からそのような特徴を持っていますので、その頃からの継続した対応が必要になってくるのではないかと思います。子育て面でも支援をお願いし、市全体としての総合的な対策を子どもだけに限らず、保護者やこれから親になる方にも発達障害に対する周知・研修などを進め、市民全体でも理解を深めていく必要があります。市には総合的な対策をお願いしたいと教育委員会として考えておりますので、委員の皆様からも要望があればぜひこの場を出していただければと思います。</p>
市 長	<p>現場の出来事を教育長からご報告いただいている中で、その子自身の学校における環境だけではなく、周りに及ぼしてしまう影響によって逆にその子自身が追い詰められてしまうこともあったり、保護者が現実をなかなか受け入れなかったり、お子さんへの対応を拒んでしまう方もいます。現場の先生も対応に苦慮することが以前より増して話が出てきています。この件は、伊藤委員からもお話いただければと思います。</p>
伊藤委員	<p>この課題は最近特に増えてきています。保護者自身や兄弟なども発達障害であったりするので、全体に啓発を行う必要があります。</p> <p>発達障害という言葉はどなたも聞いたことがあります。という障がいなのか、一人ひとりが違うということを知ることがありますので、市全体としても取り組んでいく必要があります。</p> <p>教育長からもありましたが、乳幼児期からの対応が大切で、私も小金井市の1歳半検診で心理士として仕事をしており、乳幼児期にうまく対応できたご家庭とお子さんはわりと順調に進みますが、そこで対応を誤ると小学校や中学校で問題が大きくなります。検診での漏れを減らし、その後のフォローをしっかりすれば小中での対応が少しでも軽減されます。</p>
市 長	<p>私たちが子どものころは、その子の個性として感じていたのかもしれませんが、専門的なお話になってしまうかもしれませんが、他の委員の皆様も、今日は伊藤委員もいらっしゃるのでご自身の周りのことや質問などありましたらぜひお願いします。塩野委員はいかがでしょう。</p>
塩野委員	<p>よく聞くのは市の3歳児健診ですが、ここでは発達障害に関する診断はないのですか。</p>
伊藤委員	<p>心理士が対応しますので、診断は直接できませんが、何回かお会いした後に傾向があるというお話しをさせていただくことがあります。問題のある家庭は、健診であったお話を保健師が伝えても「うちは結構です」と相談に乗らず、後々になって大変となることが多いです。強制ではないのですが、如何に支援していくか</p>

教育長	<p>というところで、根気よく拒否されない程度にマークし、保護者が心配になってきた時点でうまく声かけをすると相談に乗られますので、そういう意味でも5歳児健診は大切と考えております。</p> <p>本市では就学時健診時に必要に応じて検査を実施しております。</p>
塩野委員	<p>何年か前に、先生が面倒見のいい子に発達障害の子の面倒を見てほしいとお願いしていると聞いたことがあります。クラスもずっと同じ、修学旅行も班も同じなど、変えてほしいというところもあると思いますので、先生への発達障害に対する教育と市でも対応をお願いします。</p>
市長	<p>意図的なのか、2から4クラスある中だとたまたま何年も同じクラスになることもあると思いますが、任せているわけではないものの、その子と一緒にだと楽だなというのも思われがちではないかと思います。</p>
伊藤委員	<p>席を決めるときに、発達障害の子ども同士で隣にすると必ずトラブルになります。しかし、先生のなるべく近くに座らせたかったので、一人おきくらいにして、しっかりしてる面倒見の良い子を意図的に間にはさんでいるケースがあります。しっかりとしている子は限られていますが、担任は変わってもその子は変わりませんので、そのような役目を任されることはあるのかもしれませんが、本人の負担になっているなら考えた方が良いでしょう。</p>
市長	<p>その経験がプラスに作用するのも往々にしてあるのかもしれませんが、負担感があるならそのとおりでと思います。山城委員はどうですか。</p>
山城委員	<p>放課後子ども教室にも関わっていますが、発達障害の診断を受けているお子さんがいらっしゃいます。最初は机の上に物を落としたり、友達に暴力を振るったり、私たちもすごく大変でしたが、親がしっかりと対応し、療育や様々な経験を通じて、先日の大井図書館で行われた文庫の集いでは、しっかり座って見ることができていました。周りには動いてしまうお子さんもいましたが、これにも釣られず集中されていました。これは対応方法が分かったことで対処できたと思います。</p> <p>他の子では、静かにと伝えたそばから話し始めている子がおり、診断は受けていませんでしたが2学期からさらにひどくなり、先日保護者から診断を受けた旨の報告がありました。期間が違うだけでも影響が大きいので、なるべく早く気付いてあげ、療育を受けさせてあげるのが良いと思います。</p> <p>また、先日子ども子育て会議に参加し、子どもの貧困対策計画の説明では、貧困も早期発見が重要で、赤ちゃん訪問や検診、保育所に協力を仰ぐとお話されていました。発達障害に関しても、そのような協力をお願いして、発達障害を早く見つけてあげて、貧困対策と併せて進めていただけたらと思います。</p>

<p>市 長 富田委員</p>	<p>富田委員はいかがですか。</p> <p>今日は総合教育会議ですが、最上位計画を作らせていただいた委員として、今後のふじみ野市を考える上で、選ばれ、住み続けてもらえるまちを目指すというのが将来像でありまして、選ばれて住み続けてもらえる基本となるのは教育の部分が大きいと思っております。</p> <p>この発達障害に関わる問題というのはもはや教育にとって避けて通れない課題と思いますので、オブラートに包んで隠しながらやっていくというよりは、表に公開した上で誤解のない形で正しい情報を市民の皆さんと共有することを進めていく必要があると思います。</p> <p>また、この姿勢を見せることが、ふじみ野市が教育に対して先進的な取組を真剣に行っているというアピールに繋がるのではないかと思います。ぜひ教育委員会と市長部局で協力して具体的に進めていただきたいという要望です。</p>
<p>市 長 教育長</p>	<p>今現在、特別支援学級を増やそうという平成30年度予算を教育委員会からご要望いただいているところですが、特別支援学級のみならず、普通学級における発達障害のお子さん達の支援やその他の子ども達への影響も抑えていかなければなりません。</p> <p>また、先生達への負担もどのようにしていかなければならないかを考えなければなりません。現場経験の長い先生もパンクして対応がしきれなかったという事案もあります。支援や現場などのことも含めて教育長から一言いただければと思います。</p> <p>市長から一人ひとりへの支援のほかに学級の正常な運営に対する支援も必要ではないかという学校現場にとっては本当にありがたいお話をいただきました。</p> <p>昔の先生は1人で何でもできたように映りますが、最近は分業体制を取っているという話を受けます。これは、昔とは多様性が格段に違い、一人で対応するにはあまりにも幅が広すぎるという現状があるためです。</p> <p>本市は他市に比べて支援員という制度が進んでおり、学級担任に対してサポートし、全体の子ども達に目が行き届くようにという姿勢で配置していただいております。今後も継続していただき、教育委員会としては充実をお願いさせていただきながら、同時に教員の質を高めていく必要があります。</p> <p>昔の流儀が通用せず、ベテランの先生は自信の裏づけとなっているプライドが通用しない時に心を病んでしまうことが多いです。このような場面に対する教員の質を高めると同時に、発育・発達支援センターと学校が義務教育を卒業しても継続して子ども達と家庭をサポートできるような体制作りを進めていきたいです。</p> <p>小学生高学年や中学生は通常通りでは難しいのかもしれませんが</p>
<p>市 長</p>	<p>小学生高学年や中学生は通常通りでは難しいのかもしれませんが</p>

教育長	<p>が、教育的な知識をお持ちでない市民の方でも小学校低学年にサポーターとして入ってもらおうというのは方法として難しいですか。</p>
伊藤委員	<p>本市は地域協働学校でその部分を狙っており、一般の市民の方が子ども達へ関わってもらうことが大事だと思っています。教員としての専門性を発揮する場面と、一般の方が関われる場面に差異はあると思いますが、多くの方に関わっていただくということが大事です。一般の方が普段の学校の中を見たり、口出しができる場面や仕組みを作っていくことが必要だと思います。</p>
伊藤委員	<p>普通学級に在籍している発達障害のお子さんの問題は、通級指導教室の充実が大事です。東京都の場合は、各学校へ通級指導教室の先生が出向いて指導する形に切り替えようとしています。いずれにしても週何日かは通級指導教室へ通うお子さんには必要だと思いますので指導の充実と、普通学級の先生は疲弊していますので、教員へのサポートとしてスクールカウンセラーや巡回相談の形で、このシステムがうまく機能していくと、先生達も指導の方法などが分かり、自信にも繋がると思いますので、そのような手立てが必要だと思います。</p>
市 長	<p>教職員への啓発が必要とのことでしたので、私によければそのような場でお話させていただくのもやぶさかではないですし、私の大学にも他にも発達障害を研究している者が何人かおられますので、手分けをして出て行ってお話をさせていただければ、協力させていただきたいと思っています。</p>
市 長	<p>ありがたいお話です。まさに学校の先生のケアとして、若い先生などで対応しきれない課題が発生したときに自分自身が耐え切れなくなることも起こりえますし、様々なケースがあると思います。この国の大きな課題のひとつとしてどう対応していくかが大事です。伊藤委員のお話にあったように先生のケアとしてカウンセリングも必要ですが、私は発達障害や学校現場の実情を学校の応援団の方やPTAの方々にも知っていただき、みんなで一緒にその課題の重さを共有することが、これから様々な取組を進める上でもよろしいのではないかと思います。その折には伊藤委員にもお力添えをいただいております。</p>
市 長	<p>それでは続きまして、議題3その他に移ります。 委員の皆様から何かお話になっておきたいことはありますか。しょうか。 (特になし) 限られた時間でしたので発言の機会も少なく申し訳なかったですが、抱えている大きな2点の課題について、様々なご意見をいただきました。 発達障害の関連については、伊藤委員が偶然にもその専門家で</p>

事務局	<p>もいらっしやいましたので、心強い限りです。これからも伊藤委員のご指導もいただきながら、取組を進めていきたいと思ひます。</p> <p>通学区域については、様々な課題がある中ですが、教育委員会で地域の皆様に御理解いただけるようなプランを立てて進めていただければと思ひます。今日はお忙しい中ありがとうございました。進行については事務局に戻します。</p> <p>それでは、これをもちまして平成29年度第1回ふじみ野市総合教育会議を終了します。</p>
-----	--